

彼方 「かなた」

校長通信
H24.7.20
Vol.11

【終業式のお話】



本日をもって平成二十九年
年度一学期を終了します。

本校の学校教育目標はも
う頭に入っていますか？

「みがき合い・支え合う、
心豊かでたくましい生徒」

に向かって活動することは
できましたか？三年生にと

ってはひとつひとつの行事
が、「中学校生活最後の」と言われ

ますが、「悔いの残らない生活」を
非とも送って欲しいと思います。

一学期が悔いの残
らないものになったかどうか、し

っかりと振り返っ
てください。もし悔いが残るよう

であれば、「今」を
必死に生きることからやり直して

ください。
先日、聖路加病院の日野原先生が、

105歳の生
涯を閉じられました。生前、多く

の学校を回って、
子どもたちにお話をしていました。

その中でとても
印象に残っている言葉があります。「命」

「ONE FOR ALL! ALL FOR
ONE!」一年二組の学級目標にもなっ

ていますが、
この言葉は、昔からラグビーでよく使

われている言
葉です。京都に伏見工業という全国屈

指のラグビー
部があります。最初は学校中の不良生

徒が集まるメ
チャクチャなチームでした。公式戦

でも一対〇
で負けてしまうようなチームでした。

でも、当時の
山口監督がことあるごとに「ラグビー

は十五人がひ
とつになって初めてボールを前に運

べる。ひとり
はみんなのために、みんなは一人

のために、ONE F
OR ALL! ALL FOR ONE! これ

がラグビーだ。」と教え続けました。

すると一人一人
が変わっていきました。タバコも止

め、ケンカや夜
遊びもしなくなり、親や先生の話し

も聴くようにな
りました。そして部員が互いに声を

かけ合いながら
起き上がれなくなるまで走り、本

気で練習に打ち込
んだのです。一年後、京都で一番

のチームになり、
その後全国大会でも優勝するよう

なチームになっ
ていきました。三年生の中には先週

の葛南大会で中学
校での部活動の最後を終えた人も

いますが、明日か
ら最後の大会やコンク

ールに臨む人もいます。
是非「団体戦」を意識し、

有終の美を飾ってほし
いと思います。

このように学校は、み
んなで勉強する場所

です。三年生の進路実現も
個々の問題ではなく、み

んなで取り組まなければ
ならない問題です。「教えて！」

「いいよ！」という関係が
作られないと一人でわから

ないまま教室にいなければ
なりません。力がつくわけ

がありません。「俺もやるか
ら一緒に頑張ろう！」とい



また、いじめのアンケートの結果が
手元に届きました。いじめられて

いると訴えてくれた人が二十二人
いました。「学校は団体戦を学ぶ

場所」という認識
があれば、この数字をゼロにする

ことも容易いこと
です。いじめられている人のため

に、いじめてい
る人は直ぐに謝り、人間関係を学

び直そう。見ていて
何も言えないでいる人は、自分

から声をかけよう。
先生に事実を伝えよう。親に話

そう。いじめられて
いる人のためにできることは沢

山あります。いじめ
られている人も自分から声を上

げよう。それでもま
だダメなら、みんなで行動を正

すことを学び、「団体
戦」の勉強をしよう。一学期そ

ういう勉強が少な
かった人は、二学期に取り組んで

みよう！
夏休みは、学校を離れ、各自の

目標に向けてがん
ばる「個人戦」の勉強の場です。

しっかりと自分自身
と向き合って、時間を大切に

し、有意義な生活を送
って欲しいと思います。そして

心身共にリフレッシュ
して、元気な笑顔で二学期

また一緒に「団体戦」
の勉強をしていきたいと思

います。